

「こんにちは！知事です」（令和2年11月18日（水）平川市立碓ヶ関小学校） 概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、平川市立碓ヶ関小学校での実施概要をお知らせします。

積極的に行っている全校児童によるたて割り班での学校活動や地域との絆を深める取組などについて紹介していただいた後、代表児童5名と知事が意見交換を行いました。

（参加：第4～6学年児童 28名）



（発言児童1、6年女子）

私は、幼稚園の時に、家で飼っていたペットが死んで大泣きした経験があります。生き物には長生きしてほしいという気持ちを持っているので、獣医になりたいと考えています。



青森県では高齢化が進んでいて、これからお年寄りが多くなっていきます。私たちは、碓ヶ関の施設訪問で、お年寄りの方々と触れ合う機会がありました。その時、お年寄りの方々は、みんな喜んでくれました。ですから、これからもお年寄りとの触れ合いが大事だと思いました。

そこで、青森県ではお年寄りに喜んでもらうためにどのような取組を行っていますか。

（知事）

昔は60歳になるとすごく年を取ったと感じましたが、高齢化が進んでいることもあって、今は60歳になっても働かなければいけない時代になってきました。

県では、高齢者がどんどん増えていっても、地域の生活機能を守っていける「青森県型地域共生社会」の実現に向けて取組を進めています。

（高齢福祉保険課）

現在の青森県民は、約3人に1人が65歳以上の高齢者です。今から25年後の2045年には、約2人に1人が高齢者になるとされています。

高齢化が進み、一人暮らしや夫婦だけで暮らす高齢者が多くなっていくと、生活に困ったり、一日中誰とも話をしなかつたりする方が増えていくため、近所同士や地域社会などが工夫し、みんなで高齢者を支え合う仕組みを作ることが大切です。

そこで、県では、近所で集まって気軽に話をしたり、体操やスポーツなどの趣味を通したりして仲

間づくりができる「つどいの場」を増やす取組をしています。この碓ヶ関地区にも、2つの「つどいの場」があり、フォークダンス、ボードゲーム、カードゲームなどをして、楽しく仲間づくりをしているようです。

また、地域の老人クラブの活動も支援しています。碓ヶ関地区の8つの老人クラブでは、駅前の花壇整備、神社の草取りなどのボランティア活動やペタンクというスポーツなどを行っているようです。

こうした取組により、近所同士の助け合いがより増え、暮らしやすい地域になっていくことで、元気な高齢者がどんどん増えていくと考えています。

(地域活力振興課)

県内における地域の人たちによる支え合いの取組について紹介します。

まず、中泊町の下前・折戸地区では、スーパーが車で40分もかかる遠くにあるので、町の特産物販売所と地域の人が協力して、近くの集会所で野菜などの移動展示販売を始めました。

次に、十和田市の東小学校区では、一人暮らしの高齢者が多いので、高齢者の見守り活動を始めました。「高齢者等の見守り活動ハンドブック」を作り、誰でも使えるようにホームページで公開しています。

また、藤崎町の柏木堰地区では、バス停まで歩くことが大変な高齢者のために、デイサービスと地域が協力し、デイサービスの送迎車の空き時間を利用して、スーパーまで乗せていくといったサービスを提供しています。

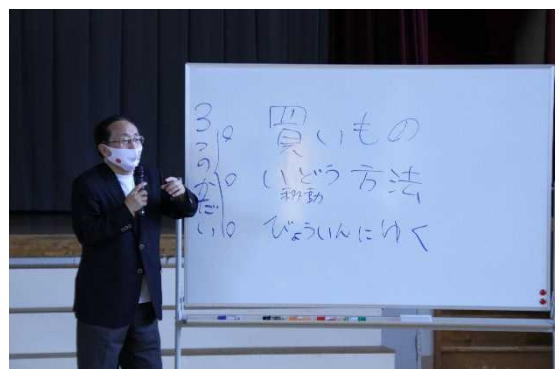
最後に、平川市の東部地区では、雪が多いので、助け合いで除排雪をするという仕組みづくりを進め、今年の冬から始める予定となっています。また、高齢者の見守り活動も一緒に始めるとのことです。

このような取組は、県、市町村、地域がみんなで相談し、進めてきたもので、これからも高齢者が安心して暮らしていける地域づくりに向けて取り組んでいこうと考えています。

(知事)

お年寄りが増えると、主に3つの課題が出てきます。1つ目は、買い物をどうするか、2つ目は、車や自転車に乗れなくなった後の移動手段をどうするか、3つ目は、病院や医療とどうつながっていくかです。どの部分が足りていないか、県、市町村、地域で話し合いをして、この3つの課題がうまく解決できるような仕組みづくりに取り組んでいます。ただ、まだできていない部分もあるので、これからきちんと整えていきたいと思っています。

では、将来の夢である獣医師について、説明をします。



(保健衛生課)

獣医師には、高校卒業後、獣医系の大学で勉強し、国家試験に合格するとなることができます。全国には、17の大学に獣医学部があり、毎年約1,000人の獣医師が誕生していて、青森県庁でも143人が獣医師として活躍しています。それでも、足りなくなってきているので、多くの人に県庁の獣医師を目指してほしいと思っています。

そのため、県では、県庁の獣医師を目指す学生には、勉強にかかるお金を貸して応援しています。このお金は、大学卒業後、県庁で一定期間働くと返さなくても良くなるものですので、ぜひ、活用してください。

(知事)

いろいろな勉強をしなければいけないけれど、きちんと学校の勉強をやっているだけで大丈夫です。将来の夢に向かって頑張ってください。

(発言児童2、6年男子)

僕は将来、県職員になりたいと考えています。青森県には、りんごやにんにくなどの特産品があり、僕はとても大好きです。碓ヶ関の自然薯もおいしいです。今年、ジュノハートというさくらんぼを知事がテレビでお知らせしているのを見て、僕はとても食べたくなりました。このように、僕も青森県の良さを全国や世界に広める仕事をしたいと思います。

そこで、県職員の皆さんが青森県の良さを広めるためにしていることはありますか。



(総合販売戦略課)

青森県は、りんご、ごぼう、ホタテガイなどが全国1位、ながいも、マグロなどが全国2位など、全国トップクラスの収穫量や漁獲量を誇る農林水産物の宝庫となっています。

また、お米では、青森県で初めて、最もおいしいランクの特A評価を受けた「青天の霹靂」のほか、今年デビューしたさくらんぼ「ジュノハート」や「青い森紅サーモン」などを全国の皆さんに知ってもらえる青森ブランドとして育てる取組をしています。

青森県の農林水産物をより多くの人に知ってもらうために、ホームページやInstagramなどのSNSで県産品の情報を発信しており、県外の人にも知ってもらうために、県外でも県産品を買える所や食べられる所も伝えています。

そして、県内のスーパーなどでも、どんな人がどんな思いで農林水産物を作っているのか、時には作っている人と一緒になって、しっかりPRしています。もちろん、県内だけではなく、東京、大阪、九州、沖縄など、全国各地で青森県フェアをしたり、台湾や香港などの海外で青森りんごを中心とする県産品のPRをしたりしています。

(知事)

いろいろなフェアなどで、県産品にはどんなものがあるって、どうおいしいかということ、みんなで踊ってPRしています。

(決め手くんが行く！ダンス 披露)

(総合販売戦略課)

今年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、ステージパフォーマンスがなかなかでき

ないので、代わりにPR動画を作成し、県産品の情報発信をしています。

(県産品PR動画 放映)

将来は県職員になって、一緒に県産品をPRしてくれることを楽しみにしています。

(知事)

ぜひ、一緒にやりましょう。

知事の仕事はいろいろあって、青森県を元気にするために、例えば、道路を直したり、学校にエアコンやパソコンを設置したりするのに幾らかかるのか、あるいは、県産品を売るためにどうしたらよいのかなどを考えて、議会で提案し、その議決を経て、実際に動いています。

将来、県職員として、どういうことをしてみたいですか。こういう販売戦略をやってみたいですか。

(発言児童2)

はい、一緒にやってみたいです。

(知事)

最近、県職員を希望する人が減ってきているので、ぜひ受けてください。先生方の言うことをよく聞いて、普段どおり勉強していれば大丈夫です。頑張ってください。

(発言児童3、6年女子)

私は、県内で看護師になりたいと考えています。看護師になって、病気になった多くの人を助けたいです。

青森県は、ねふたまつりや桜祭りなどが行われ、楽しくて住みやすいところですし、観光客もたくさん来ます。そして、三内丸山遺跡が世界遺産になったら、もっと観光客が増えると思います。青森県や碓ヶ関にたくさん観光客が来てくれることはうれしいのですが、今は新型コロナウイルス感染症が心配です。観光客が来ることで、自分や周りの人が感染するのではないかと心配しています。

そこで、青森県では感染を拡げないためにどのような取組を行っていますか。



(知事)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、医療や福祉に携わっている人たちは、みんなを守って元気にしたいと、苦労しながら頑張ってくれています。

県では、そのような人たちに心から感謝する「あおもりオペーション」という取組をしています。ただ感謝するだけではなくて、いろいろな応援もしていかなければいけないと思っています。

一番の応援は、皆さんが後を継ぐということです。青森県では、看護師も医師も、すごく足りていません。ですので、看護師になりたいと言ってきて、すごくうれしいです。

（防災危機管理課）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、外出する際は人ごみを避けることやマスクの着用、人と人との適切な距離を保つことなど、皆さんの普段からの心がけが大切になってきます。

県では、人と人との距離を保つソーシャル・ディスタンシングの考え方が定着するよう、「離れるやさしさ～あなたへの思いやり～」のキャッチフレーズとロゴマークを作りました。

また、新型コロナウイルスに感染した人やその家族、医療・介護・福祉関係者などへの誤解や偏見、差別が問題になっているので、皆さんの不安を和らげることや感染防止に関する正しい知識を普及することなどが、今後ますます重要となります。

そのため、県民の生活を最前線で支える方々への感謝や、感染した方やその家族、感染防止対策に関わった方々の人権への配慮、感染防止対策に関する県民の理解をより深めるといった雰囲気を盛り上げるために「あおもりオペーション」という取組を進めています。

（観光企画課）

青森県には、自然やおいしい食べ物、ゆったりできる温泉がたくさんあり、それを楽しみにたくさんのお客が来てくれます。しかし、新型コロナウイルスへの感染が少し心配なところもあります。

そこで、県では、観光客や観光施設で働く人が安心できるように、「あおもり観光新型コロナ対策推進宣言施設」の登録制度を設け、観光施設の入口に登録施設であることを示すポスターを貼ってもらっています。平川市だと、「道の駅いかりがせき」や「からんころん温泉」の入口に貼っています。

このポスターがあるところでは、観光施設で働く人に発熱がないかなどの健康管理を行ったり、観光客に手指消毒やマスク着用などの感染対策をお願いしたりして、そのことが分かるようになっています。

ポスターを貼っている観光施設や旅館・ホテル、道の駅などは、県内にいろいろあるので、ぜひ皆さんも探してみてください。

（知事）

ホテルや旅館、観光施設も気を付けてくれているし、利用客もすごく増えてきています。ただ、新型コロナウイルスの場合、無症状で何ともないということがあるので、これからもしっかり用心していきたいと思います。

小学生以下の場合は、ほとんどかからないとも言われていますが、きちんと手洗いをしてください。

では、将来の夢である看護師について、説明をします。



（医療薬務課）

看護師には、高校卒業後、看護系の大学か専門学校で勉強し、国家試験に合格するようになります。

看護師は人と直接関わる仕事ですので、コミュニケーション能力が重要になります。今のうちから友達や家族、先生や地域の人などとたくさん話をして、能力を高めてください。

また、県では、看護師を目指す学生や看護師になってから専門の資格を取りたい方のために勉強にかかるお金の貸付けや補助を行っています。

将来はぜひ、県内で看護師として働いてくれたらうれしく思います。

(知事)

看護師になったら、人の命を守ることになりますが、体の病気や怪我、心の病気など、いろいろあって、やることがすごく多いけれど、将来の夢に向かって、自分自身も健康で、学校の勉強もして、運動もしてください。

(発言児童4、6年男子)



僕は将来、大工になりたいと思っています。碓ヶ関も昔は林業が盛んでした。青森県全体では今も林業が盛んで、建材に使える木材がたくさん採れます。ですので、県産木材で青森県にたくさん家を建てたいと思っています。

でも、青森県全体の人口は減少していて、廃墟も多いようです。人口が減ると大工の仕事も減ってしまうと思います。

そこで、青森県では人口増加のためにどのような取組を行っていますか。

(知事)

実は、青森県では、日本中で住宅や料亭、寺を建てて歩く人たちが出てきました。青森県民は手先が器用でとても真面目なので、たくさん勉強して、ヒバやアカマツなどの木の特性についていろいろ知っているすごい大工もいます。将来は、青森県に残ってほしいけれども、日本や世界のどこに行ってもいいので、すごい建物を造る大工になってほしいと思います。

(企画調整課)

人口減少についてです。今の青森県の人口は123万人ですが、毎年1万5千人くらいずつ減っています。皆さんが35歳くらいになる25年後には、今よりも更に40万人くらい減り、だいたい82万人になるとされていますが、青森県だけでなく、日本全体で減っているという状況です。

なぜ、青森県の人口が減っているのかというと、若い人たちが高校を卒業して大学に行ったり、就職したりする時に、県外に出ていってしまうからです。ちょうど、18歳と22歳の時に県外に行ってしまう人が多くなっています。

そのため、県では、若い人たちが県外に行かなくても県内で働けるように、「しごとづくり」をいろいろ進めてきました。今では、働ける職種もどんどん増えていますし、もともと青森県では農業が盛んなので、農業を始める人もどんどん増えています。

(知事)

特に農業では、毎年300人くらいが新規就農者として農業を始めています。

(企画調整課)

昔のイメージのまま、青森には仕事がない、仕事があっても給料が低いと思っている人もまだまだ多いので、昔とは違うということ、いろいろな所に出向いたり、リーフレットを作ったりしてPRしています。

また、青森県での暮らしやすさについてもPRしています。例えば、東京だと往復2時間くらいかけて通勤する人も多いですが、青森だとその半分くらいの時間で済みます。

ほかにも、安くて広い家を建てることができますし、公園の広さも青森県はトップクラスです。そのため、子育てに優しい所ということもPRしています。

これからも青森暮らしには良いところがたくさんあるということを若い人たちにPRしていきたいと思います。

(知事)

私が高校生の頃は、みんな東京に行ってしっかり頑張れと言われていて、本当にみんな出て行きました。やはり、当時は仕事がなかったのだと思います。

知事になった時も、青森県の有効求人倍率は、仕事が欲しい人が100人いたら29人分しかなくて、残りの71人は仕事がなくて困っている状況でした。今は100人いたら100人以上の仕事があります。働く場を作るために、いろいろな所から企業を誘致してきて、昨年度までに514件の新設・増設がありました。

また、自分たちで仕事を興そうとする創業・起業の支援もしてきました。10年くらい前までは、創業・起業をする人は年間7～8人しかいませんでしたが、今では、年間100人を超え、そのうち4割近くは女性で、エステやスイーツ工房、ダンススタジオ、カフェなど様々な仕事を興してくれるようになりました。

要するに青森は、いろいろなチャレンジができる所になってきています。でも、そういうことになかなか気付いてもらえません。だから、実は、今は働くところがたくさんあるだけでなく、仕事をいろいろ選べるようになってきているということを一生懸命PRしています。



(林政課)

県産木材を使った住宅についてです。県では、県産木材を使った住宅を県民の皆さんに知ってもらうために、毎年「あおり産木造住宅コンテスト」を実施したり、県産木材を使った家やそうした家を建ててくれる工務店を紹介する「あおり産木材地産地消ガイドブック」を作成し、銀行や書店、図書館などに置いてPRしたりしています。

県内で活躍している有名な大工に、五戸町の大山建工で働いている中里政義さんという棟梁がいます。中里さんは16歳から大工の世界に入った、この道49年の大ベテランです。棟梁として、福岡県の博多にある超一流料亭の建替えや深川にある寺の庫裡（住職の居所）・書院を建築しました。また、県の卓越技能者にも選定され、県随一の大工とされています。

将来、青森県で大工になって、県産木材を使った家をたくさん建ててほしいと思います。

(知事)

すごく真面目にコツコツと物事を成し遂げる青森県民には、大工も向いていると思います。中里さんも16歳でこの道に入って、最近だと新千歳空港に茶室を建てました。青森県には、木がたくさんあって、職人もたくさんいます。大工になって何か建ててくれたら、必ず見に行きたいと思いますので、将来に向かって勉強してください。

(司会・発言児童5、6年男子)

僕は、医師になりたいと思っています。耳の病気で大きな手術をして助かった経験があるからです。



医師になって碇ヶ関の人たちが長生きするようにしたいです。

青森県は、全国で一番の短命県で、その原因の一つが塩分のとり過ぎやたばこの吸い過ぎなどの生活習慣だと言われています。この生活習慣が良くなると寿命は延びないと思います。

そこで、青森県では県民の平均寿命を延ばすためにどのような取組を行っていますか。

(知事)

短命県返上のためにいろいろな取組をしてきた結果、青森県の平均寿命は延びてきましたが、他県も延びてきています。ただ、健康寿命は良くなってきました。

(がん・生活習慣病対策課)

青森県の平均寿命は全国最下位で、男性1位の滋賀県とは3.1歳、女性1位の長野県とは1.7歳の差があります。

青森県民の死亡の原因は、がん、心臓の病気、脳の血管の病気で半分以上を占めています。これらの病気は「三大生活習慣病」と言われ、食べ過ぎや運動不足、酒の飲み過ぎ、たばこなど、健康に悪い生活習慣の積み重ねによって、亡くなる方が多くなっています。

食事も、好きなものばかり食べていると栄養の偏りが出てくるので、バランスの良い食事を心掛けましょう。県では、大人は350g以上、小中学生ですと300g以上、毎日野菜を食べようとPRしています。ただ、目標まで大人はあと50g、小中学生はあと35g足りていません。皆さんの場合だと、1日にミニトマトあと4～5個、あるいはきゅうりあと半分をプラスすると300gを達成します。

また、野菜たっぷりや塩分控えめのメニューを出してくれる食堂やレストランなどを「青森のおいしい健康応援店」に認定しています。

そのほか、味噌汁や煮物にだしを使うと旨みが出て、塩分控えめでもおいしく食べられるということもPRする「だし活」という活動もしています。昨年度からは、この「だし活」に加え、野菜をもりもり食べて、野菜に含まれているカリウムの力で体内から余分な塩分を押し出す「だし活」+「だす活」についてPRも始めていて、実践してくれる県民が増えることを目指しています。

次にたばこです。たばこを吸う人は、吸わない人に比べて1.7倍、がんになりやすいと言われています。特に、喉のがんには32.5倍なりやすくなります。たばこを吸うと煙の中に含まれる成分などが肺に溜まり、黒い影になっていきます。

そのため、県では、建物の中を禁煙としている施設や車には、そのことが分かるように「空気クリーン施設」、「空気クリーン車」のステッカーを貼ってもらっています。

また、会社の従業員に健康診断を受けてもらったり、建物を空気クリーン施設にしてもらったりして、従業員が健康に過ごせるようにしている会社を認定する「健康経営認定制度」の取組も進めています。

そのほか、がんは早く発見して治療を始めると助かる病気ですので、がん検診を受けるよう勧めて

います。青森県の男性の受診率は目標値 50%を超えるようになったので、さらに検診を受けてほしいのですが、女性は男性よりも少し低いです。家の方がきちんと検診を受けているか、家に帰ったら聞いてみてください。

最後に、皆さんも、栄養バランスのとれた食事をする、体を良く動かすこと、歯磨きをすること、よく寝ることなどに気を付けて病気にならないように生活すると、長生きできます。また、大人になったら、きちんと検診も受けてください。

(総合販売戦略課)

青森県民は、塩をとり過ぎているため、血管が詰まって心臓が止まったり、腎臓が使えなくなって人工透析をしたりする人も出てきています。

そのため、7年前から「だし活」という活動を始めました。「だし活」は、みんなで手軽にやろうということで、歌やダンスで推進しています。ですので、今日はみんなで踊ってみましょう。

(だし活ダンス 披露)

(知事)

青森県民は、食べ物やたばこ、運動不足などから生活習慣病にかかってしまう人が多いので、このような活動を通じて野菜を食べたり、運動したりしてもらい、青森県民を健康にしていきたいと思っています。

では、将来の夢である医者について説明します。



(医療業務課)

医師には、高校卒業後、大学の医学部医学科で勉強し、国家試験に合格するとなることができます。医学部医学科では、医療に関わる幅広い項目を勉強します。座って勉強するだけでなく、実際に人の体を解剖したり、患者を診察したりすることもあります。

医師の中には、病院の先生以外にも、研究者や大学の教員として働く方もいます。

患者の病気を治すためには、看護師などの仲間と協力しなければなりません。学校の友達とたくさん遊んでチームワークの大切さを学んでください。

県では、医師を目指す学生を応援するため、病院見学や医師の講演会を開催しています。また、勉強にかかるお金の貸付けもしています。詳しくは、ホームページ「医ノ森 aomori」で紹介しているので、検索してみてください。

(知事)

医学部医学科の合格者は2007年からどんどん増えてきているけれど、それでも全然足りていません。医学部医学科を卒業して、一人前の医師になるには10年かかるからです。

医師になるために一生懸命勉強して、将来は青森県民の命を守る仕事をしてくれたらうれしいです。

(司会・発言児童5)

以上で意見交換を終わります。

(知事)

今日は、代表児童の将来の夢や、新型コロナウイルス感染症や健康のことなどについて、話ができて良かったです。

今年は、県産品の販売が本当に大変です。青森県は、果物は600%、魚は300%と、ものすごく食料自給率が高いので、売らないと経済が回っていきませんし、農家も漁師も困ってしまいます。

そのようなことも含め、皆さん一人ひとりが感じている課題は、県でも感じていることです。皆さんが思っていること、感じていることをきちんと良い方向に進めていくために、もっと頑張らないといけないと思いました。

君たちが、中学生、高校生、そして大人になっていく過程で、それぞれ自分の道を進むために努力しなければいけないけれど、努力がきちんと報われる青森県、みんなが頑張っていけるような青森県にしていくために、我々も頑張っていきたいと思います。

何をやるにも、全ての原点は健康だと思います。今日の皆さんは、ハキハキして、笑顔が良くて、すごく素敵だと思いました。一人ひとりがすごく健康に成長していくことを心から願って御挨拶とさせていただきます。

今日は本当にありがとうございました。

